

クルーズサマリー

1. 航海情報

(1) 航海番号： KS-22-4

(2) 使用船舶： 新青丸

(3) 航海名称

沖縄トラフにおける最終氷期以降の定量的な黒潮変動復元

(4) 主席研究員

入野 智久 (北海道大学)

(5) 研究代表者

S22-30 久保田 好美 (国立科学博物館)

(6) 研究課題名

S22-30 沖縄トラフにおける最終氷期以降の定量的な黒潮変動復元

(7) 航海期間

2022/04/01 - 2022/04/10

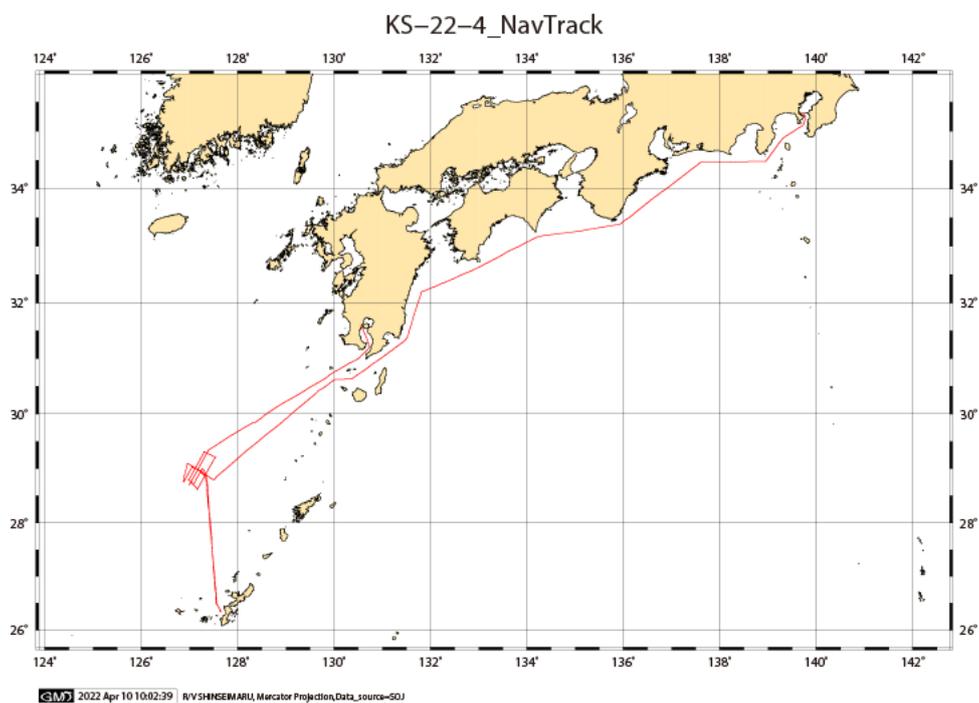
(8) 出港～帰港

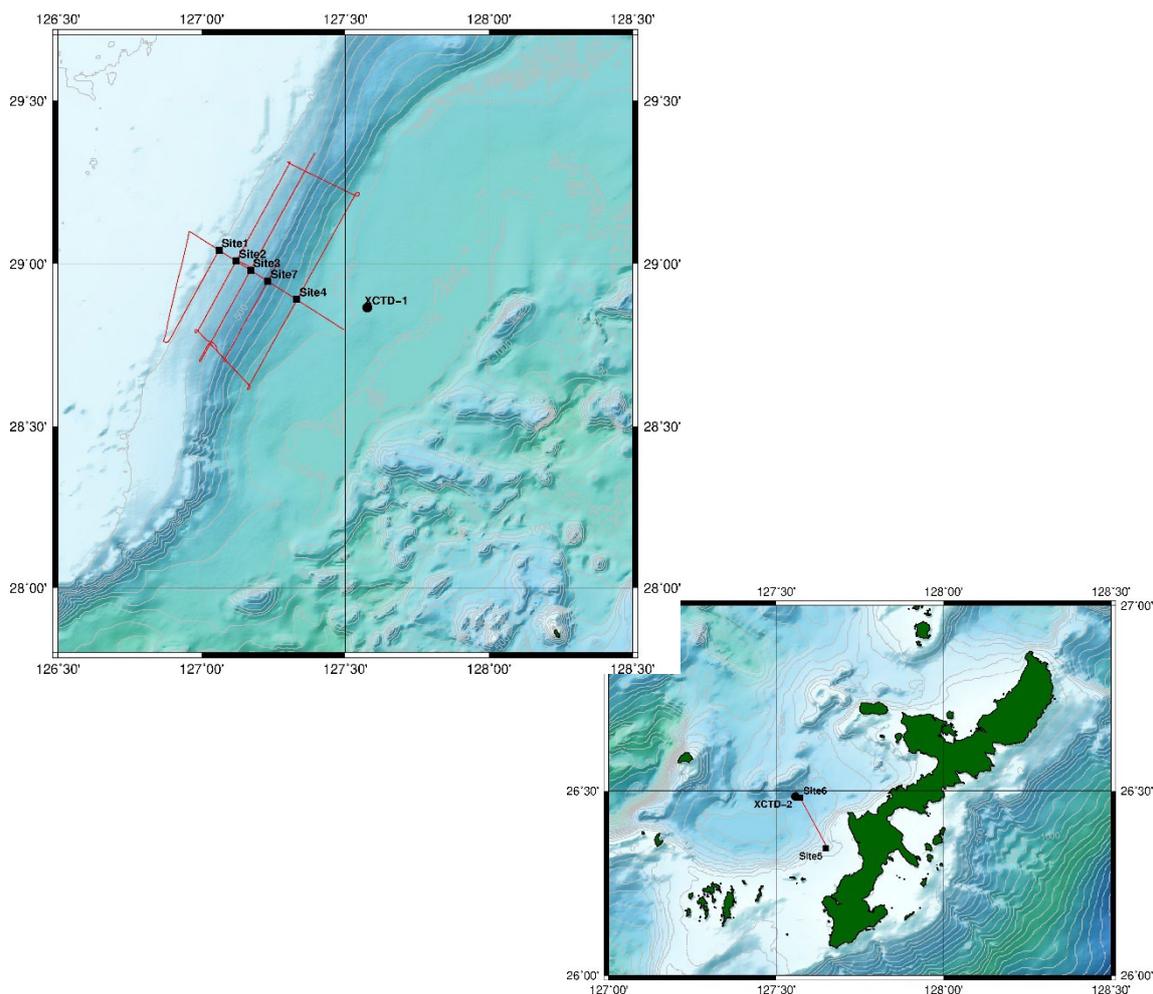
横須賀港 JAMSTEC 専用 2 号栈橋 - 鹿児島港本港北埠頭 1 号岸壁

(9) 調査海域

沖縄トラフ中部周辺海域

(10) 航跡図





観測点および測線

2. 調査概要

本研究航海は、沖縄トラフ中部の両側斜面において、最終氷期最寒期に届く水深 200~900 m で複数の長尺ピストンコアを採取し、東シナ海を南から北に流れる黒潮水の密度構造や黒潮流の影響がおよぶ海底堆積物の粒度変化を推定することを通して、最終氷期以降の黒潮の流量復元を定量的に行うことを目的としている。この目的のために、黒潮流軸の西側の陸棚斜面 5 地点および東側の沖縄本島西方沖 2 地点において、マルチプルコアラーおよびピストンコアラーによる採泥を行った。また、過去の黒潮水の水温・塩分を復元するためのプロクシ精度の検証ならびに西部北太平洋水塊に生息するプランクトン群集への黒潮の影響を評価するために、陸棚斜面域の 2 地点において CTD 採水、NORPAC ネットによるプランクトン採集も行った。採泥を行った各地点における堆積環境や堆積様式を検討するために、採泥点を水深トランセクト方向ならびに等深線方向の測線に沿って横切る海底地形探査ならびに海底下地層探査を合わせて行った。結果として、7 本のマルチプルコア、5 本のピストンコ

ア試料を得ることができ、海水試料、生物試料とともに、乗船研究者の所属機関に送られた。これらの試料は、CT スキャン、記載、粒度・鉱物・元素分析による堆積相解析、浮遊性・底棲有孔虫殻の酸素・炭素安定同位体比ならびに微量元素組成分析に供される予定である。